

第2次中期経営計画(平成 30 年度～ 34 年度)

令和 4 年度(平成 34 年度)進捗状況 2023 年(令和 5 年) 3 月 17 日

別府溝部学園短期大学
企画運営委員会

1. 教育研究等の推進に関する計画

別府溝部学園短期大学の建学の精神「自立・自活できる人材の育成」を具現化し達成するため、教育の内容、教育の人的・物的資源の適正配置の再構築を図る。そのために短期大学設置基準、各種免許資格の養成施設基準を遵守し (A)、本学の特性に応じた対応を図る (A)。

令和 4 年度現在において、4 学科とも定員割れの状態である。従来は留学生の入学者が定員割れを改善する傾向にあったが、コロナ禍のため出国・入国制限のため秋学期の入学者が激減した。また、日本人入学者の現象に歯止めがかかっていない。学生による授業評価では 90 %以上の肯定的評価になっており、専門就職率もほぼ 100 %を達成していることから、教育面での問題ではない。在籍学生の教育以外の満足度に問題があるのか、広報活動に課題があるのか、受験生へのアピール方法の改善が求められている。本学関係者の全てがこれらの解決への分析と対応が必要がある (B)。IR 室を中心にデータの収集中。在学生の「別府溝部学園短期大学に入学して良かった。卒業して良かった」この言葉が普通に聞こえる運営を図ることが永続的・安定した経営に繋がることを共有していく (A)。そのためにも、学生が能動的に学び・参加していく教育をめざす (教学改革) (A) アクティブラーニング達成率 85 % (全国平均 15 %)。各学科の教育課程と学科行事とのバランスの再検討を進める。新型コロナウイルスの感染拡大防止のため行事等の見直しを行ってきた (A)。本年度に比べ来年度 (令和 5 年度) 収容率は横ばいの予定。学長を中心に学生募集への対応は教職員間では意識改革は進んでいる。 (A)

あわせて、地域 (別府市・玖珠郡・大分県) との連携を強め、地域をテーマとした教育・研究を推進する (A) 食物栄養学科の卒業研究は大半のテーマを地域連携関係とし、成果をあげた。 (A) 特に「おおいた地域連携プラットフォーム」の大分県と連携した九重町・玖珠町の復興事業では、温泉コンシェルジュコースの学生を中心とした活動が評価された。そして、別府市の公園内のウメ事業では、大分県で 1 位の表彰をいただいた。 (A)

全学的「教学改革」を進める中で、教職員の情報共有や情報の一元化、エビデンスを元にした改善計画の策定のため、学長を中心とした戦略会議を定期的に実施し PDCA サイクルの構築を図る (A) 戦略会議を 2 回実施し、在学生のヒアリングを実施し教学改革の改善状況を確認出来た (A)。

〈ライフデザイン総合学科〉

幅広い教養と専門的な知識を深く学び、優れたバランス感覚としなやかな感性を身につけた、時代の求める人材の養成を目指す。

1) 介護福祉士国家試験対策に重点

平成 29 年度より施行された国家試験制度への対策を推進する。(A) 授業時間数の確保と講師陣の確保が必要不可欠となる。(A) 時間割の見直し急務 (A)
国家試験合格率 100 % を達成 (A)

2) 地域との連携を進め、学生の自発的介護活動を支援する。(A) 推進中

委託訓練生との連携も大幅に改善された (A)
※地域ふれ愛ひろばを開催し介護福祉士としての活躍の学習活動を推進 (A)

【予算的措置】

- ・各イベントにおける予算の策定 (A)
新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、事業規模の適正化。
- ・教育経費の質の向上 (B) 情報関係予算が実態に合っていない (実際は多く必要)
※教育機材等の必要な物品が、更新できていない。
- ・研究予算の拡充 (B) 積み上げができていない

学科ごとに、全教職員一人につき 5 万円を準備し、学科の判断で研修等にあてる (A)。
全ての教職員の研修会等の参加・学習を推進し、教員個々の教育・研究のスキルアップを図る (B)。
研究室の整備を計画的に行う (B) 未整備一部あり (場所の設定ができていない)。
- ・図書館機能を見直す。
学生の能動的活動を推進するための学習の場として改善を進める (A)。
※本年度より記念館 2 F を全て図書館機能として活用することに変更実施。
但し、閉館時間が実質 4:50 で学生の教育活動に課題がある。要改善 (C)

II. 社会貢献の推進に関する計画

地域の中での高等教育機関としての別府溝部学園短期大学は、大分県、別府市、日出町等々の地域との交流・貢献が求められている。そのため、地域のイベントへの参加、地域へ開放・公開した短大発のイベントの実施、短大の施設設備の地域への開放・利用促進を図る (A) 公開講座等で積極的開放実施。特に、別府市、日出町との地域連携を強化する (A) 連携協定の推進。別府市議会との連携協定。本年度は別府市議会と学生・教職員との「こども食堂」をテーマに意見交換会を実施。あわせて、大学間連携をとおして大分県との課題解決をとおしたアクティブラーニングを推進する (A) 教育活動のなかに、地域課題の解決をテーマにした活動を推進 (A)。※「おおいた地域連携プラットフォーム」

各学科のこれまで実施してきたイベント等の、より一層の地域への情報発信を活発化する (A)。参加の呼びかけを積極的に行い、企画の段階から地域の方々や学生を加える (B)。本学へ足を運んでいただき、地域が求めているものの情報収集を行う中で、地域への本学教職員の派遣参加を促進する (A)。公開講座等で推進しているが情報収集及び情報発信の成果が少ない。これらの活動には学生の参加をより強固に推し進めていく (A) 学生参加を推進。対費用効果を向上する仕組み作りの課題。 (B)

VI. 情報の提供に関する計画

学生募集（収入確保）の観点から、別府溝部学園短期大学は令和4年度では、4学科とも日本人学生は定員割れの状態である（B）入学定員の見直し実施を行い、介護福祉学科は40名→30名、食物栄養学科は60名→40名、と削減した結果収容率は大幅に改善された。特に介護福祉学科は110%の入学率となった（A）。※収容率の80～90%台へ改善。社会人の受け入れは制度が整い成果をあげてきている（A）委託訓練3学科受け入れ。但し、定員充足は食物栄養学科のみ。今後の地域連携を図る中で露出度を高めていく必要がある（B）。そして、各学科で実施しているイベントをマスコミに取り上げていただく戦略的対応が不可欠となる。入試広報課のみならず、法人本部と情報の共有を図り、「オールMIZOBE」でマスコミ対策を図る（B）連携強化。また、高校生への情報提供については、これまでの紙媒体とあわせてホームページを通じたデジタル環境の対応に向けて力を入れていく。SNSへの取り組み、iPadを積極的に活用し、本学在学生による主体的情報発信をとおした学生募集を行う（B）インスタグラムやLINEの活用推進（A）。今後は併設の高等学校への進学希望者の入学支援も必要となる。併設校との連携に一層の努力を払う（A）連携協定の改定実施（A）。従来型の高校訪問に課題あり。改善が必要。（B）

VII. おおいた地域連携プラットフォームとの連携による事業計画

1) 高等教育活性化部会

○高大接続の実質化による中等教育支援と高等教育機関進学の推進

高大連携協定の締結（別府溝部学園高校、大分高校、福德学院高校、東九州龍谷高校）

（A）

出前授業の実施、ガイダンスによる進学支援（A）

○新しい学力観である「学力の3要素」の定着を図る高大接続の実質化

本学ホームページ、大学案内、募集要項に「学力の3要素」に基づく選抜方法の記載
（A）

大学の授業計画（シラバス）に「学力の3要素」に基づく授業の目標設定、提示（A）

オープンキャンパス等での高校生に対する「学力の3要素」の位置づけ説明（A）

カリキュラムポリシーの策定に「学力の3要素」を踏まえる（A）

○学生の確保等による若年層の人口流出抑制

4学科の大分県内就職率を90%を目指す。（A）

2) 教育プログラム開発部会

○産学官連携による地域の高等教育の質向上と地域創生人材の育成

協議会の選定する「地域連携プログラム」に参画

食物栄養学科（R1年4件、R2年5件、R3年1件、R4年3件）、幼児教育学科（R1年2件、R2年1件）（A）

○大学等連携による地域に密着した科目的充実

温泉コンシェルジュ関係科目5科目を連携大学生との単位互換（A）

○県内短期大学進学率の高さに応える短期大学の振興

大分県内高等学校入学率は約90%であり、関係免許資格等取得率は100%を目指す。

（A）

表彰状

第1位

別府溝部学園短期大学

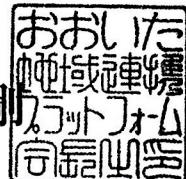
別府市の公園で収穫したウメの実の有効活用
～公共団体のSDGsをめざして～

あなたは令和4年度に実施した おおいた地域連携プラットフォーム「実践型地域活動事業」において 審査員による投票の結果 頭書の成績を認められましたのでここに賞します

令和5年3月14日

おおいた地域連携プラットフォーム会長
国立大学法人大分大学 学長

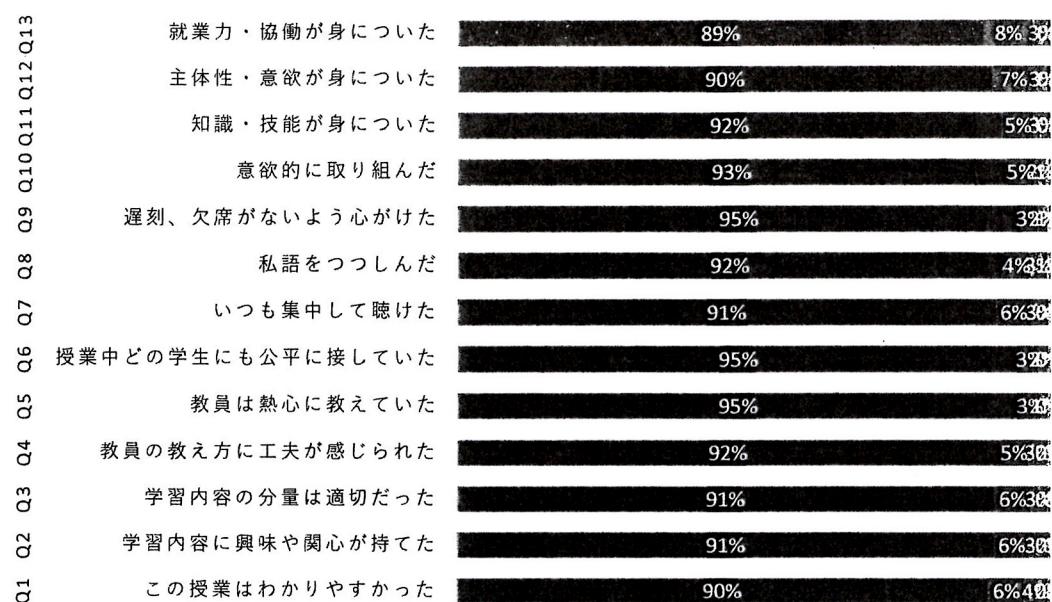
北野 正剛



令和4年度学生による授業評価（春学期）

4 学科全科目平均（春学期）

■肯定的 ■どちらでもない ■否定的 ■無回答



令和4年度学生による授業評価（秋学期）

4 学科全科目平均（秋学期）

■肯定的 ■どちらでもない ■否定的 ■無回答

